

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【問題】

第1問(論理的文章) 問6 (i) 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】に即して作成した【メモ】の空欄を補う問題

【ポイント】

正解:①

こうした問題の場合、内容を補充することを求められている空欄が、何についての説明であるかをしっかり把握する必要があります。特に(i)で問われている空欄Xでは、【文章Ⅰ】における「人間の『名前』についての捉え方」を正しく説明したものであると同時に【文章Ⅱ】における「人間の『名前』についての捉え方」である「『名前』が意味するものは、広がっていく」とは異なるものを選ぶ必要がありました。そうした設問を解く上で押さえなければいけない条件をきちんと踏まえて解いたかよく見直しておいてください。

【問題】

第2問(文学的文章) 問6 【資料】を踏まえた本文の解釈として正しいものを答える問題

【ポイント】

正解:③

こうした問題の場合、【資料】の内容と本文内容の両方に反しないものを選ぶ必要があります。今回の【資料】は硬質な文体であるために、読みにくいと感じた人がいたかもしれませんが、そこでは本文の作者である尾崎一雄の文学が、自らの実感に裏づけられた深い死生観が、わかりやすい言葉で表されたすぐれた心境小説であることが示されています。【資料】では直接本文である「こおろぎ」については言及されていませんが、本文を正しく読解できていれば、【資料】において示された尾崎文学の特徴を本文もまた備えていたことはわかるはずです。そのうえで選択肢の内容を慎重に吟味しましょう。例えば正解の選択肢中の「ことさらにドラマチックに仕立て上げるようなことはしない」は、【資料】中の「俗談平話」に対応した表現でした。こうした選択肢の内容を正しく理解できていたかどうかよく見直しておいてください。

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【問題】

第3問 問4 二つの文章の内容についての説明の問題

【ポイント】

教師と生徒の会話を読んで、会話中の空欄に入る言葉を選ぶ形式で、空欄は三箇所あり、それぞれを三つの小問に分けて問うています。会話全体は、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を比べる内容になっていますが、会話の内容から、一つ目の空欄は【文章Ⅱ】の和歌の内容について、二つ目の空欄は【文章Ⅰ】の登場人物の描写について、三つ目の空欄は【文章Ⅱ】の書き手の意識による特徴について、最適な説明を選ぶ問題になっています。つまり、どれも、【文章Ⅰ】か【文章Ⅱ】かどちらかについての読解を問うているにすぎないのです。

共通テストが実施されて2年、センター試験にはない形式の問題が模索され続けていますが、毎回少しずつ形式を変えて出題される新傾向の設問は、よく見ると、どれも提示されている本文の内容が読めているかどうかを問うているにすぎません。そのことは、共通テストの古文の設問が、さまざまな新傾向を模索すればするほど、明白になってきています。見た目をどんなに変えても、所詮は、古文の問題は、文章を正しく読めたかどうかを問うことに尽きるのです。共通テストを想定したさまざまな演習問題を解きつつ、目新しい形式の設問に出会うたびに、そのことを確認しておく、来たる本番で落ち着いて解答に集中できるように。

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【問題】

第4問 問4 対応する内容を指摘する問題

【ポイント】

正解:⑤

共通テストの特徴の一つである、二つの文章の双方の内容を比較検討する問題です。まず【文章Ⅰ】の文脈を踏まえて「以諫諍為非美」の内容を理解する必要があります。ここは「君主が臣下の諫言を立派ではないと見なす」という意味で、君主が臣下の諫言に対して快く思わないことを述べています。次に【文章Ⅱ】の文脈を踏まえて選択肢の箇所を解釈し、同じ内容のものを選びます。【文章Ⅱ】の君主は太宗で、諫諍を行った臣下は魏徴なので、「太宗が魏徴の諫言を快く思わない」内容のものを探します。「諫言を歴史書に残そうとした魏徴の行動を、太宗が快く思わなかった」と解釈できる⑤が正解です。正解できなかった原因としては、【文章Ⅰ】の文脈を踏まえた「以諫諍為非美」の意味を取り違えたことが考えられます。多くの受験生が②を選んでいました。【文章Ⅱ】の話の展開が理解できず、感覚的に選んだのではないのでしょうか。②は「杜正倫が罪を犯して左遷された」という意味で、魏徴の諫言や太宗の態度とは無関係です。二つの文章に関連する内容を指摘する問題は、それぞれの文章の大意をつかんだうえで、傍線部および各選択肢の箇所を正確に解釈することに努めましょう。